

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

会社がおかしくなる 6 つの要因 永守 重信 (日本電産社長)

1. 会社がおかしくなる要因の一番目はマンネリでしょう。それから油断、そして驕り。人間はすぐこういうつまづきをするのですが、この段階はまだ元に戻せるのです。その次が妥協。震災がおきたのだからしょうがない。円高だからしょうがないと妥協する。これはもうさらに落ち込みます。次は怠慢です。頑張っても怠けても給料は一緒じゃないかとかね。そして最後は諦めです。そんなこと言っちゃってできません、という考えがはびこってきた時は末期症状です。
2. 最初の 3 つはそんな大敵ではないけれど、後の 3 つに陥ったらもう取り返しがつきません。そして一番怖いのは、後から入ってくる幹部が昔の苦労を経験していないために、一流企業に入ってきたような感覚で振る舞うことです。そういう人たちには口で言っても伝わりませんから、プレハブ建屋 (日本電産本社の 1 階に設置している創業当時の作業場) を見せるのが一番です。
3. 最近一流大学から入社してくるようになりましてけど、一番大事なのは、日本電産が好きだという人間、よく働くこの会社で自分も一緒に頑張りたいという人間が集まってくることです。ただ有名で給料も高いから入りたいとか、役員として入ってきて威張り散らすような気持ちでやられると、会社はあっという間に沈んでいきます。
(参考:「致知」2011 年 10 月号)

ワンポイント経営アドバイス

コスト削減の 3 ケ条

遠藤 功 (早稲田大学ビジネススクール教授)

企業にとってコスト削減は永遠のテーマである。コスト削減にあたっては次の 3 つことが重要である。

1. 単価を問う前に「必要か」と自問せよ
肥大化する業務に伴い購入する物品も増える。しかし、それらは不要かもしれない
2. 「見える化」で問題を顕著化させる
現状を「コスト高」と思っていないケースが多い。問題が見えれば人は解決しようとする。
3. 現場を育てて継続的な活動をする
1 度限りではなく、継続的なコスト削減が重要。そのためには人材、現場を育てること。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2011 年 7 月 30 日号)

経営者のための危機管理

経営機能の分散化

1. 東日本大震災を機に「経営機能の分散」の重要性を認識し始め、行き過ぎた経営資源の集中を見直す動きが産業界に広がっている。そのパターンは次の 5 つに大別される。①生産拠点の分散②調達先の分散③物流機能の分散④売り先の分散⑤その他機能 (本社、データセンターなど) の分散。
2. このうち最もポピュラーなのは、①生産拠点の分散だ。また、②調達先の分散をこの機会に検討する企業も増えている。例えば、東芝は岩手東芝エレクトロニクス製の製品を大分工場などで代替生産。堀場製作所は京都で生産している主力製品を、新設の阿蘇工場でも生産、等である。

(参考:「日経ビジネス」:2011 年 6 月 13 日号)

古典に学ぶ

どんな人間の前にも「道」はある

「道は誰にも行い得られるものである。人にはみな道を行うに足るだけの力がある。ただその力と道とに大小の差があるに過ぎぬ」

(訳) 現代の言葉で言うと、道は、誰の前にも拓ひらけている。人は皆、その道を歩く力がある。ただ、その力と道の大きさ、強さが、一人一人、違っているに過ぎない。

(参考: 渋澤健「渋沢栄一 100 の訓話」: 日経ビジネス人文庫)